

地区防災計画の作成に 取り組んでいます！



かつて天井川(旧草津川)があったことから
水害対策に力を入れてきましたが、現在は草
津川の災害は減少し、次にどんな対策が有効
かわからないという現状がありました。また、
古い家が多く、地盤も弱いため、地震での倒
壊の可能性が高いことも課題でした。そこで
地区防災計画の策定に取り組みました。
今後は、計画の実践を行い、追加・改訂を
重ねて、災害に負けないまちをつくることが
目標です。そして、それを引き継いでいくこ
とが大切だと考えています。

滋賀県で初めて 取り組んだ山田学区



今年度からスタート 矢倉学区と老上西学区

◎矢倉

草津川が近くにあり、
氾濫や越水の可能性があ
ります。そのためコッコ
ツと防災活動をしようと、
地区防災計画の作成に取
り組み始めました。でき
ない理由探しをするので
はなく、できる方法を考
え、小さなことから着実に
進めたいと考えています。

◎老上西

学区として災害への対
応を進めていきたいと思
い、手を挙げました。万
が一の時だけでなく、日
頃から有事に備えて自分
の身を守る心構えを養い、
そのための行動を習慣づ
けていくことを目標とし
ています。



共有のための 情報発信！

◀「Happy BOUSAI」
えふえむ草津で
第2・4水曜日
18:00～15分間放送

Q4

計画策定に
費用はかかりますか？

印刷物を作る場合は製作費が必要です。
また、専門家に監修を受ける場合、アドバ
イザー料を払う必要があるかもしれません。
しかし、独自にする場合には、日頃の自主防
災組織の活動の範囲内でできます。当初の
策定時には市の危機管理課からの補助金、そ
の後の継続にはまちづくり協議会の予算の
範囲で対応いただくことになります。
山田学区では、策定した昨年度は市の補
助金を活用し、今年度の更新には、まちづ
くり協議会の中で予算を確保しています。

Q5

なぜ、地区の防災情報を
地区の外に発信すること
が必要なのですか？

「地区のことだから、地区の中だけで」とい
う考え方は視野が狭くなりますし、「自分の
ものになった情報」というのは、思い込みも
増えていきます。そこで、まず地区の中、次
に市全体に、というように計画を発信し、多
くの人の目に触れることで、意見交換や情報
交換が行え、視野が広がっていきます。
この地区防災計画に載る情報は、災害時の
命を守るため・助けるためのものであると同
時に、「防災」で人と人を結びつけるもので
あると思います。

災害時の行動計画をみんなで作りましょう！

9月1日は
防災の日



地区防災計画の
キーワードは

みんなが
みんなで
すること

大規模広域災害の発生時には、行政による救助・支援(公助)が早急に行き届か
ない場合があり、地域での助け合い(共助)による救助活動が不可欠です。そのた
め、市では、地域の実情に合わせた地区防災計画の作成を進めています。今年
度は、14学区中3学区が地区防災計画を作成しています。「難しい?」「必要性は?」
「メリットは?」そんな疑問を専門家にお聞きし、アドバイスをいただきました。

いざという時のため、防災計画を考えてみませんか？

申・問 危機管理課
(2階、☎561-2325、
FAX 561-6852)



市の地区防災計画作成で
アドバイスをいただいている

関西大学社会安全学部
安全マネジメント学科
准教授 近藤 誠司 さん

Q1

町内会の自主防災
との違いや、
計画づくりの
メリットは？

草津市の場合、14の小学校区に分
かれており、それぞれの地域でそれ
ぞれの防災計画ができるのではない
かと思います。地域の皆さんが、地
域の特色や実情に合わせて、よりき
め細かな防災の計画を立てるので、
より実効性が高いものになります。
また、「計画」という形でまとめる
ので、情報の抜けや漏れ、間違いを
発見でき、地域の弱みや強みを再確
認できます。そして、みんなで取り
組むため、できあがった計画が自分
たちのものとなり、実際に役立つも
のになります。

Q3

「防災計画」というと、難しい
文書を作らないといけないとい
うイメージがあるのですが

作り方は自由です。手が
込んだ映像でも、ポスター
でも大丈夫。地図にして毎
年更新し、改定しているこ
ところもあります。屋版と夜
版と地図を2枚にする、地
震と洪水に分けて計画を
作成するなど、やり方はい
ろいろで、自由にできるの
が地区防災計画のメリット
です。
極端な例で言うと、紙
媒体でなくてもいいのです。
つまり、計画文書よりも、
「計画づくりをする」とい
う過程が重要なんです。

〈計画策定のプロセスが大事(PDCA & Sを繰り返す)〉

- P** (Plan: 計画) 文書やリスト、地図などを作る
- D** (Do: 実行) みんなで助け合えるのか使って試してみる
- C** (check: 検証) 課題が見えてくる
- A** (Act: 見直し) 見直しをして改善
- S** (Share: 共有) 日頃の取り組みを活性化させるための情報発信

Q2

主にどんな人を中心に
作っていくと
いいのでしょうか？

昨年、地区防災計画を作成した山田学区の
場合、まちづくり協議会の防災部会のメンバ
ーの中から、策定委員会を作りました。その
委員会が中心になり、各町内会長や自主防災
会のリーダーに町内の実情を聞いて、計画に
盛り込んでいきました。

市の防災情報

災害時に的確な行動をとるため、災害情報を入手しましょう！

■災害時の情報収集手段 NHK地デジdボタン

えふえむ草津(FM78.5MHz)ラジオ放送

屋外スピーカーの情報が流れます。無料アプリもあります。

詳しくは、えふえむ草津ホームページ(<http://www.fm785.jp/>)

緊急速報メール

携帯会社を通じた強制配信です(配信内容に制限あり)。

市内一斉緊急放送システム

市内にある87カ所の屋外スピーカーから情報発信をします。

屋外スピーカーの情報を他の手段で得るには

- 市の登録制災害情報メール…QRコードを読み
取るか、kusatsu-touroku@sg-m.jpに空メール
を送り、登録してください。
- 電話での自動応答…☎0120-119-932



■くさつシェイクアウト

シェイクアウトとは、地震発生時を
想定して「Drop(まず低く)」「Cover
(頭を守り)」「HoldOn(動かない)」の
3つの動作を行う、基本的な安全行動
の訓練です。

🕒 9月10日(日) 10:30(約1分間)

📍それぞれの自宅や学校、職場など
🏠 屋外スピーカーやえふえむ草津から
の訓練放送を合図に行きます。
参加人数を把握するため、参加登
録をお願いします。詳しくは、お
問い合わせください